

平成27年度 第4回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会  
議事録

日 時	平成27年10月13日(火)	開 会 午後 1時00分 閉 会 午後 3時30分
場 所	全員協議会室	出席者数 委員定数12名中 出席者10名
出席者	委 員	鏡会長、金子委員、齋木委員、関根委員、長南委員、星委員、森田委員、深野委員、岩村委員、吉田委員 ※欠席 昼間副会長、根岸委員
	事 務 局	【事務局職員】 島田総合政策部長、水口政策企画課長、磯谷政策企画課副課長、高野政策企画課主任 (株)富士通総研 若生
配付資料	第4回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 次第 資料1 地方人口ビジョン概要版(案) 資料2 結婚・出産・子育て、転入・転出のアンケート結果について(概要) 資料3 総合戦略新規検討事業概要 資料3 総合戦略の構成素案	
公開・非公開	公開(傍聴 5名)	

## 会 議 事 項

1 開会 総合政策部長

2 会長あいさつ 鏡会長

3 議事

(1) 地方人口ビジョン（案）の概要について【資料1】

資料1を事務局から説明。

質疑応答

委 員：スポーツ客の目的や構成割合はどうか？大きな施設や大会があるのか？

事務局：H22の県の推計調査時点では、市民総合体育館で大会等が多く開催されたこと等が影響していると思う。

委 員：東村山市は体育館が22時20分まで使える。市民は、スポーツへの意識が高く、多くの世代が利用している。人口を安定させるためにもスポーツ振興が今後重要と考えている。

委 員：市街化区域か調整区域かなどエリア別に人口を出すことはできるのか。

事務局：小学校区別での人口の状況は調べてある。

会 長：独自推計のパターン3では、平成32年が人口のピークとなっている。また、平成52年頃までは現在の人口を維持する見込みということである。

委 員：どのパターンを採用して戦略を定めるのか。

事務局：パターン3の独自推計をベースに考えていく。合計特殊出生率1.4を維持し続けると仮定した場合も推計の1つとしてお示ししているが、将来の人口が独自推計からどの程度変化するかは今後庁内で議論し決定していきたい。

会 長：市で議論を進めてもらい、答申時までには採用する人口を報告頂ければと思う。

(2) アンケート結果の概要について【資料2】

資料2を事務局から説明。

質疑応答

委 員：待機児童の状況について教えていただきたい。

## 会 議 事 項

事務局：仕事を持っていて預けなければならない待機児童は4月時点で10名、6月には0名である。求職中の場合の待機児童は約160人程度。

委 員：延長保育の対策はどうか？

事務局：公立・民間ともに延長保育を実施しているが、民間保育園は20時まで受入している園もある。また、延長保育を希望する人は各園で数名程度になる。

委 員：結婚のための行政の支援を必要とする人の男女比は分かるのか？

事務局：男女ともに7割近くである。

### (3) 総合戦略の構成（素案）と審議会からの意見について【資料3】

資料3を事務局から説明。

会 長：資料はまだ決定したものでなく、本日の議論の材料として示しているもので、大変申し訳ないが会議終了後に回収をさせてもらいたい。

会 長：本日は、各委員から出してもらった意見の中で、特に強調したいものを基本目標ごとに議論・集約していきたい。今回の総合戦略の事業実施は行政だけでなく、企業・NPO・地域の人などの活動もコラボレーションして進んでいくものだと思う。事業主体や事業内容も併せて議論していく必要がある。

#### 【基本目標：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

委 員：若い人が富士見市に集まり住み続けてもらうことが重要で、市としても全面に出してほしい。第2子以降は経済的理由等からハードルが高いとも聞く。保育料の支援等で2人目を後押しするような政策を打ち出すべきと思う。

委 員：市は第2子保育料は半額にしているかと思うが、いつまで続くのかが不安である。将来の人口推移を前提にして、市が一時的な施策でなく長く安定的に施策を続けられるよう健全な状態をつくることが根本になる。そのためにはまず人がいなくてはならないことだと思う。いつまで続けられるのか、いつ終わるのかというイメージも共有しておく必要がある。

委 員：限られた財源の中で、市として何を看板にあげていくかがポイントではないか。市の推計を見ると、人口が大きく減ることはないようなので、人口総数よりも人口構成が課題ではないかと思っている。

## 会 議 事 項

会 長：子育て支援の充実を標榜して政策を打ち出すのは重要。公共政策として税金を原資に実施するのか、企業等が実施するかで負担割合は変わってしまう。やり方や負担の割合は次の議論で、市としてこれが重点施策であるというのを出せばよい。既に溶け込んでいる事業もこれから溶け込む事業もあるが、子育て支援は非常に重要な論点。

委 員：あらゆる世代にとってスポーツは大事になってくる。これからは、公民館や生涯学習施設は鍵になる。軽スポーツもできる公民館は人気がある。施設の充実や利用時間の延長も考えられないか。公民館が難しければ、空き家などを有効活用し、例えばひとり親世帯の学習支援などができるのではないか。地域の人がよりやりやすく活性化できる施策を、市民を巻き込みながら考えてほしい。それによって、お金はないが、子育て支援が充実したまちとして活性化できるのではないか。

会 長：この目標の中では、延長保育の拡充や保育士確保など「**保育支援の充実**」と「**スポーツ環境の充実**」が柱になるのではないか。予算や具体的事業内容は行政に任せることになる。また、様々な主体が様々な費用負担でやっていく話になると思う。

### 【住んでみたい・住み続けたいまちの取組み】

委 員：農業の振興のうち「担い手育成」は「地域資源を活かしたまちの活性化の取組み」に整理し「地産地消」は「住んでみたい・住み続けたいまちの取組み」に整理した方が良いのではないか。

事務局：地産地消が定住に繋がる部分もあると思う。検討したい。

委 員：まちの活性化に結びつくことは、住んでみたいまちにつながるのではないかと思う。単にハード事業・ソフト事業で分けた方が良いのではないか。

会 長：この目標にはハード事業が多い。「商工業の振興」「環境の保全」が2本の柱になるのではないか。「地域公共交通」は扱いが難しいと思う。

事務局：作成の過程では、本市の農業は地域資源であり魅力の1つとして位置づけた。商業は、地域の買回りのベースとなる商店などが生活を支えると考え「住み続けたいまちの取組み」に設定している。

会 議 事 項	
会 長	構成は原案のままをしたい。
委 員	創業支援事業計画認定は良い取り組みである。また、企業立地助成も並行して検討すると、より効果が出ると思う。
会 長	<b>「創業時の支援制度の拡充」</b> も取り組むべき柱になるのではないかと。
委 員	斜面林・平地林・湧水などはあまり知られていない。土・草は残っているが遊び方を知らない人が多い。朝霞の森プレーパークでは、ファシリテーターがいて遊び方を教えてくれる場所がある。自然豊かな遊び場を享受し子どもたちを育むのも1つのコンセプトになるのではないかと。併せて、びん沼自然公園へのアクセス面が改善できれば、子どもの教育にも繋げられると思う。
会 長	<b>「自然環境の整備・保全」</b> が柱になるのではないかと。
委 員	可能な限り駅舎などをきれいにしていこうという運動はできるかもしれない。
委 員	東武東上線と西武線とを地域間競争として比較すると、ストレスなく乗換えられること、混雑率の少ない方、便利な方が勝っていくのではないかと。
会 長	<b>「地域公共交通の充実」</b> は意見として承りたい。
<b>【地域資源を活かしたまちの活性化の取り組み】</b>	
会 長	<b>「農業」と「商業の振興」と「地域活性化」</b> が柱になるのではないかと。ソフト面での <b>「農業振興」</b> がひとつの柱になるのではないかと。
委 員	地域の資源としての農業と、学校・住民・商店街などとの連携が市の特徴としてあげられるのではないかと。ものをつくるだけでなく、食文化まで考えた他産業との連携を考えていくべき。
委 員	富士見市は商業より農業のほうがイメージがわきやすいと、市の個性として都市と農業の共生は出していけるもの。市内には自然栽培で有名な方もいる。わかりやすさと訴求のしやすさからすると農業は中心になる。農業を本市のコンセプトに掲げ、応援する取り組みが必要なのではないかと。
会 長	市民が農業を支える仕組みも大事になる。
委 員	現実問題として農業後継者がいるのかが心配。次代の担い手はどうか。企業が入ってくることも考える話になると思うが、実情はどうか。
委 員	知る限りでは、市街化区域内の農業は他市町に負けておらず、収益をあげて

## 会 議 事 項

いる方もいる。問題なのは調整区域。富士見市は基盤整備もしている。現役世代が将来の方向性を話し合っているが、法人化、集落営農も夢ではないと思う。いろいろな作物もつくっている。悲観する必要はないのではないか。

会 長：「**農業を活かしたまちづくり**」が柱になるのではないか。

委 員：野外活動の啓蒙という点では、びん沼公園や富士見江川などが活用できるがあまり知られていない。市内で優位な自然活動ができる場所をまとめ、繋げていくとよい。その場にふさわしい自然活動を吟味し、方向性やコンセプトをつくっていくべきと思う。

会 長：新河岸川やびん沼も含め「**親水地区の活用推進**」ではどうか。

委 員：斜面林と水を守るのは今しかないと思う。他市でもあったが、南面の斜面は開発されてしまう。斜面林は湧水・親水の点でも大事。開発規制が必要。

委 員：水子地区は開発が進んでいるが、防災的観点から斜面林への規制が必要ではないか。人口を増やすための施策を行い開発が進んでいる一方で、空き家が増えているというアンバランスな状況になっている。そのような観点も入れつつ、頂いている意見について何を守っていくべきなのかを考えながら進めないといけないと思う。

委 員：水と斜面林の保全の視点も加えてほしい。この場だけの議論で終わる話ではないと思う。

委 員：地域資源としての親水地区の活用は、イベントの開催などではなく保全する意識を教育・醸成する観点になると思う。

会 長：「**自然環境の活用推進**」が柱になるのではないか。

### 【安心して暮らせるまちの取組み】

会 長：安心して暮らせるコミュニティをどうつくるかの話になる。

委 員：自ら活動する市民は、市の財産になる。隣の人のことを気かけられる人を増やしていくという話なのではないか。

会 長：「**すべての人が安心して暮らせる担い手づくり**」が柱になるのではないか。

委 員：報道等では補助金をどう使うかという戦略づくりになってしまっている話も聞く。地域で稼ぐことを考えていかないといけないと思う。

## 会 議 事 項

会 長：まちづくり、ひとづくり、しごとづくりは地域に根付かないといけない。

人を動かしていく新しい仕組みをつくれるかの話になる。重要なのは、決定後にどのように事業化・ネットワーク化していくかだと思う。

(4) 次回審議会の日程について

会 長：第5回は11月17日(火)14時からとしたい。

事務局：会場は、ふじみ野交流センターでお願いしたい。

4 閉会 鏡会長